

新たな北海道総合開発計画中間整理(案)概要

国土交通省北海道局

令和5年1月30日

中間整理(案)の構成

第1章 計画策定の意義

第1節 北海道開発の経緯

1. 北海道開発の歴史
 - ・ 国全体の安定と発展に寄与することを目的として、特別な開発政策の下、北海道開発を推進。
2. 第8期北海道総合開発計画の経緯
 - ・ 北海道の強みである「食」と「観光」を担う「生産空間」を支えながら「世界水準の価値創造空間」の形成を目指すこととした。
 - ・ 計画期間中は、北海道の農業産出額や来道外国人旅行者数は増加。
 - ・ 一方、感染症拡大による観光客の急減により北海道の経済に甚大な影響を与えた。

第2節 新たな北海道総合開発計画の意義

- ・ 北海道開発の基本的意義は、北海道の資源・特性を活かして、その時々々の国の課題解決に貢献するとともに、地域の活力ある発展を図ることにある。
- ・ 我が国は2050年までのカーボンニュートラルの実現を目指すこと表明。
- ・ ウクライナ情勢や円安等を背景として、エネルギーや食料品の価格高騰や国際的な供給不安が発生するなど、北海道開発を取り巻く急速かつ大きな変化が生じている。
- ・ 再生可能エネルギーのポテンシャルが高い北海道は、我が国の経済社会づくりを先導する役割を担っている。
- ・ 2050年までの長期を見据えた展開の方向と施策の内容を示すものとして新たな計画策定が必要。

第2章 計画の目標①

第1節 我が国を取り巻く状況

1. 人口減少・少子高齢化と人口動態の変化
 - ・ 北海道の人口減少・高齢化は全国を上回るスピードで進行。
 - ・ 東京一極集中のリスクが改めて認識され、地方への移住や就業に対する関心が高まる。
2. 気候変動と自然災害の激甚化・頻発化
 - ・ 地球温暖化が要因とされる気候変動問題は、世界各国が対応すべき喫緊の課題。
 - ・ 気候変動の影響により水害、土砂災害等が激甚化・頻発化。
 - ・ 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震等の巨大地震による大規模災害発生が切迫。
3. 社会を変える技術
 - ・ デジタル技術等の更なる活用により社会課題の解決やイノベーションの進展に期待。
4. 国際情勢の変化
 - ・ 大規模自然災害、食料の輸出制限等のグローバル・サプライチェーンのリスクが顕在化。
 - ・ ロシアのウクライナ侵略による国際的な供給不安の顕在化により、国内におけるエネルギーや食料の安定供給の重要性が改めて浮き彫りに。

第2節 北海道の資源・特性

1. 広大な大地 国土面積の2割を占め、都市間距離が長く、広域分散型社会を形成。
2. 食料供給力 多くの農畜産物・水産物で全国最大の生産地・生産量を誇る。
3. エネルギー・資源 風力を始めとする再生可能エネルギーや水資源が豊富に賦存。
4. 自然環境・文化 雄大な自然やアイヌ文化等の独自の歴史・文化が存在。
5. 地理的特性・寒冷地技術 北の玄関としての役割、積雪寒冷技術・研究開発の蓄積。

第2章 計画の目標②

第3節 2050年の北海道の将来像

1. 国の課題解決のために果たす役割・ 我が国の食料安全保障を支える、脱炭素化を先導 等
2. 将来像
 - 食、観光、脱炭素化等の北海道の強みを活かした産業が国内外に展開し、豊かな北海道が実現することで、我が国の経済安全保障に貢献している。
 - デジタルの実装により、北海道内の地方部における定住・交流環境が維持されるとともに、国内外から人を魅きつける多様な暮らし方が実現している。
3. 将来像を支える社会基盤
4. 将来像を実現するために進むべき方向性

第4節 新たな北海道総合開発計画の目標

2050年の北海道の将来像に向け、豊かな北海道が実現し、我が国に貢献するための土台づくりを行う。

- 1 我が国の豊かな暮らしを支える北海道～食料安全保障、脱炭素化、観光立国等を先導
- 2 北海道の価値を生み出す北海道型地域構造～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり

第3章 計画推進の基本方針

第1節 計画の期間 おおむね10年間

第2節 計画の主要施策

第3節 計画の進め方

1. 「リアル」と「デジタル」のハイブリッドによる北海道型地域構造の保持・形成
2. 計画の実効性を高めるための方策
 - (1) 官民の垣根を越えた「共創」
 - (2) 社会変革の鍵となるDX・GXの推進
 - (3) フロンティア精神の再発揮
 - (4) 戦略的な社会資本整備
3. 計画のマネジメント

第4章 計画の主要施策

第1節「我が国の豊かな暮らしを支える北海道～食料安全保障、脱炭素化、観光立国等を先導」に係る主要施策

1. 食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展
2. 地球温暖化対策を先導する活力ある脱炭素社会の実現
3. 世界トップクラスの観光地の形成
4. 地域の強みを活かした産業の育成
5. 豊かな自然と共生する持続可能な社会の形成
6. 北方領土隣接地域等の振興
7. アイヌ文化の振興等

第2節「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり」に係る主要施策

1. デジタルの活用による生産空間の維持・発展
2. 多様で豊かな地域社会の形成
3. 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成
4. 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

北海道開発の基本的意義・果たすべき役割

北海道の資源・特性を活かして、その時々^の国の課題解決に貢献するとともに、地域の活力ある発展を図る。

- 第8期計画では、北海道の強みである「食」と「観光」を担う「生産空間」を支えながら「世界水準の価値創造空間」の形成を目指すこととした。
- しかし、感染症の拡大、2050年カーボンニュートラルに向けた国の政策の展開など、北海道開発を取り巻く状況に急速かつ大きな変化が生じている。
- このような状況下で北海道開発を推進するためには、あらゆる主体がデジタル技術等を活用して連携・協働して課題解決の取組を推し進める必要がある。
- また、各主体が将来像と目標を共有し、同じ方向性の下に各自のできることを追求するため、2050年までの長期を見据えた新たな計画を策定する必要がある。

我が国を取り巻く状況

我が国及び北海道を取り巻く状況は急速かつ大きく変化している。

- ・人口減少・少子高齢化と人口動態の変化
- ・気候変動と自然災害の激甚化・頻発化
- ・社会を変える技術
- ・国際情勢の変化

北海道の資源・特性

豊かな資源に恵まれた北海道には、変化に立ち向かい課題を解決するポテンシャルがある。

- ・広大な大地
- ・食料供給力
- ・エネルギー・資源
- ・自然環境・文化
- ・地理的特性
- ・寒冷地技術

北海道が果たすべき6つの役割

- ① 分散型国づくりを支える地方創生を先導する
- ② 我が国の食料安全保障を支える
- ③ 我が国の脱炭素化を先導する
- ④ 北海道の自然環境・文化を受け継ぐ
- ⑤ 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土をつくる
- ⑥ 競争力のある産業を育成し我が国の経済成長に貢献する

2050年の北海道の将来像

○将来像

- 食、観光、脱炭素化等の北海道の強みを活かした産業が国内外に展開し、豊かな北海道が実現することで、我が国の経済安全保障に貢献している。
- デジタルの実装により、北海道内の地方部における定住・交流環境が維持されるとともに、国内外から人を魅きつける多様な暮らし方が実現している。

(将来像を支える根幹的な社会基盤の姿)

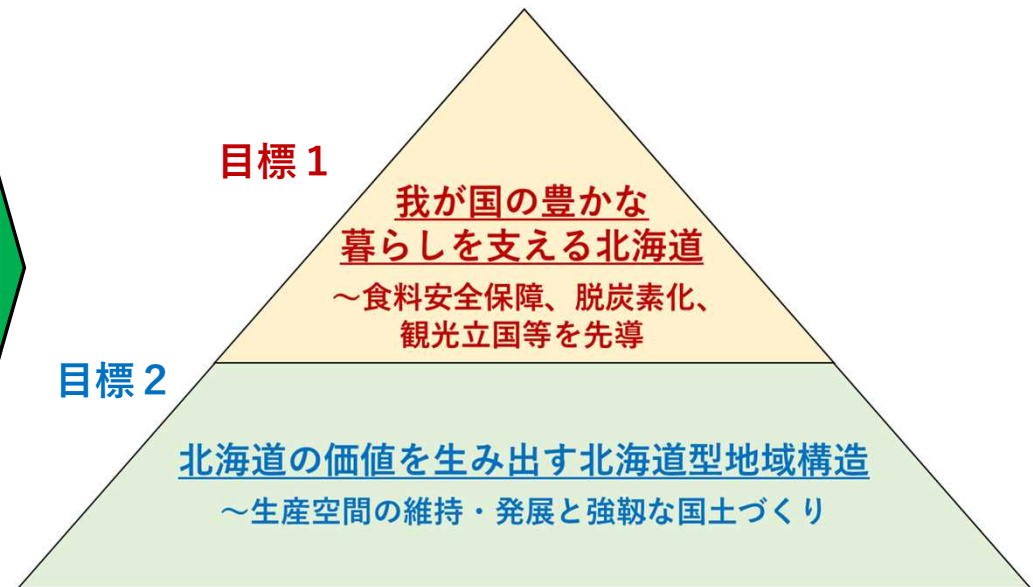
- ・北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）、高規格道路や港湾・空港等の交通ネットワーク整備の進展
- ・気候変動（2度上昇）を前提とした河川整備等の流域治水の進展
- ・大区画化等の農業生産基盤、森林、拠点漁港等の整備の進展
- ・高度なデジタル基盤や送電網整備の進展

○進むべき方向性 将来像を実現するために進むべき12の方向性

- 世界市場を見据えた「食」、「観光」、「再生可能エネルギー」産業を形成
- 地域で生まれ、育ち、安心して暮らしていくことのできる社会を形成
- 大規模災害から生命・財産を守り、社会の重要な機能を維持

等

新たな北海道開発の目標

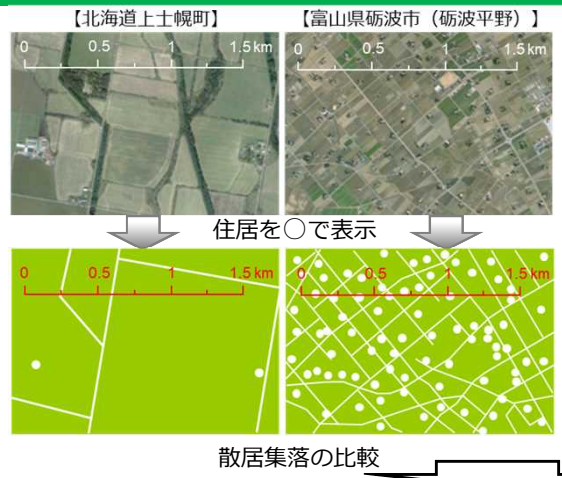
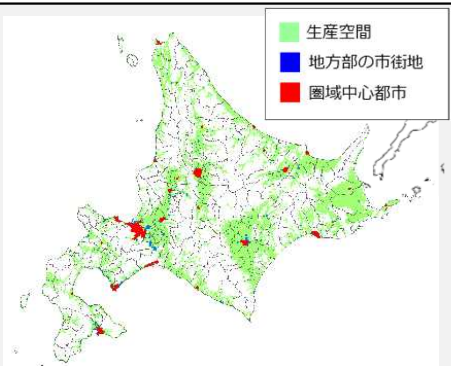


第3章 計画推進の基本方針①

1. 「リアル」と「デジタル」のハイブリッドによる北海道型地域構造の保持・形成

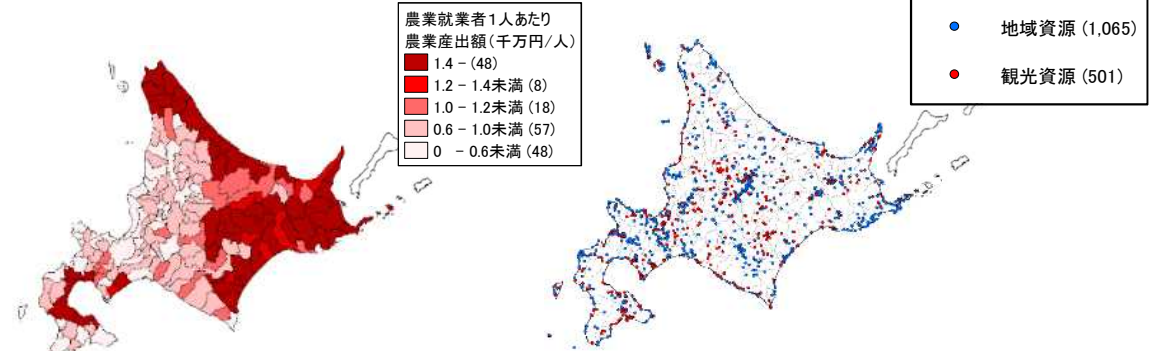
第8期計画では、北海道の強みである「食」と「観光」を担う場である「生産空間」の維持・発展を北海道開発の中心的課題と位置付け。

「北海道型地域構造」は、北海道の豊かな価値を生み出す「生産空間」に住み続けられる環境を実現するため、機能分担を基に広域分散型社会を捉えた北海道総合開発計画の根幹となる概念。

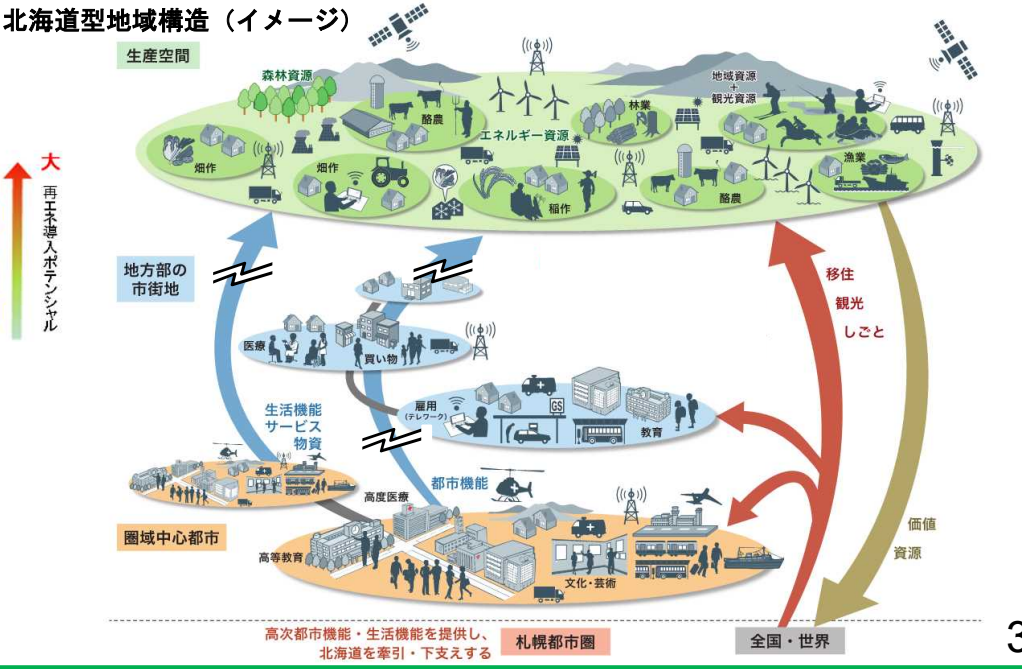
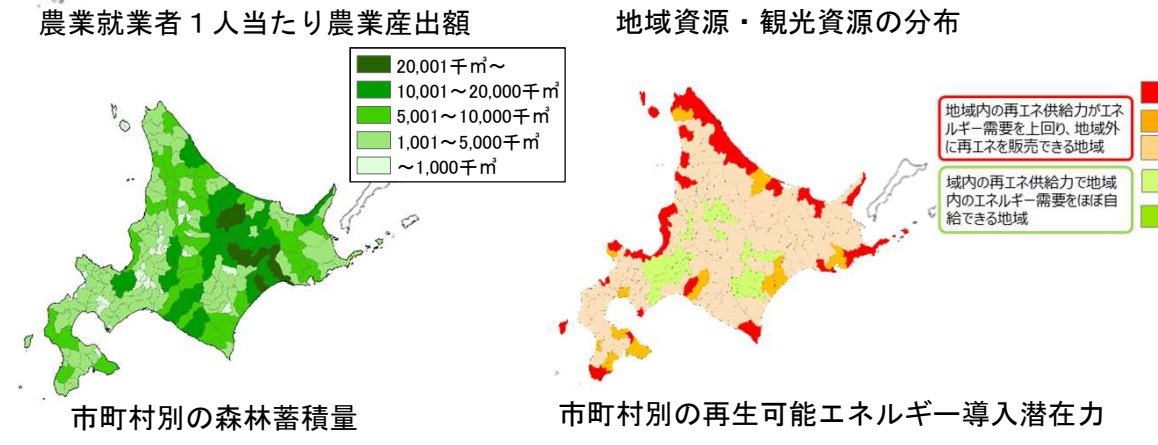


生産空間は散居集落が大部分を占め、人々が分散して生活する地域構造に対応したインフラが必要。

食料生産は実際にその場に住み続ける、観光は実際にその場に行く、という「リアル」を前提に成立しており、交通ネットワークの整備等の「リアル」を支えるインフラが不可欠。



一方、散居集落における生活環境を維持するためには、デジタル技術の活用による「リアル」の補強・補完が有効。実際の人々の営みを支える「リアル」と、時間と空間の制約を克服できる「デジタル」のハイブリッドを各種施策推進のコア概念として、「生産空間」を維持・発展。



生産空間は、これまでの「食」と「観光」という強みに加えて、「脱炭素化」への貢献という新たな価値が加わり、一層重要性が高まる。

第3章 計画推進の基本方針②

2. 計画の実効性を高めるための方策

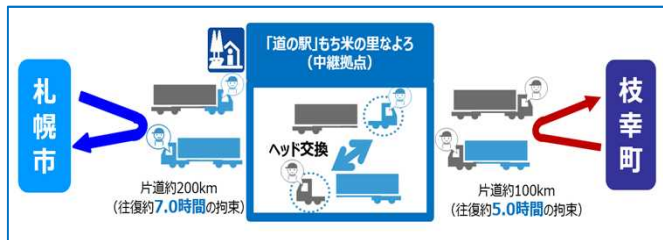
(1) 官民の垣根を越えた「共創」

- ・果敢に挑戦する人材の育成など人への投資を推進。
- ・民間企業等が公的役割を担う取組を支援し、地域の課題を解決する社会を実現。



創業支援・長期インターンシップの取組
出典：NPO法人北海道エンブリッジ

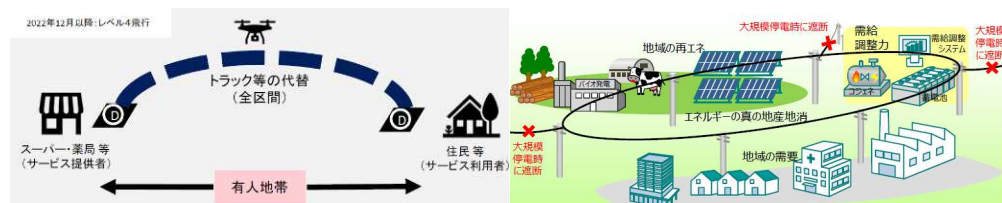
女性起業家支援ネットワーク形成の取組
(ほくじよき.net)



生産空間の物流を支える取組(物流事業者と連携し、道の駅を活用した中継輸送)

(2) 社会変革の鍵となるDX・GXの推進

- ・経済社会システムを変革し、課題解決と新たな価値を創出するDX・GXを推進。



ドローン物流
出典：デジタル田園都市国家構想総戦略(概要)

地産地消の分散型エネルギーシステム構築の促進
出典：資源エネルギー庁HP

(3) フロンティア精神の再発揮

- ・宇宙関連産業など地理的・気候的な優位性を活かした先駆的産業への支援。
- ・北海道の強みである農業等でフロンティア精神を再び発揮。



北海道大樹町で開催された「宇宙サミット2022」
写真：北海道宇宙サミット実行委員会提供

(4) 戦略的な社会資本整備

- ・流域治水やグリーンインフラなど北海道の自然や地形を活かした整備。
- ・食料安全保障に貢献する生産基盤の強化や観光振興にも寄与する交通ネットワークの整備。
- ・新技術の積極的導入や技術研究開発を推進。



北海道の地域特性を活かした流域治水



高規格道路の整備



耐震強化岸壁等の整備



農業生産基盤・情報通信基盤の整備

目標を達成するための主要施策

目標1

我が国の豊かな暮らしを支える北海道
～食料安全保障、脱炭素化、観光立国等を先導

目標2

北海道の価値を生み出す北海道型地域構造
～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり

目標1に係る主要施策

1. 食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展
2. 地球温暖化対策を先導する活力ある脱炭素社会の実現
3. 世界トップクラスの観光地の形成
4. 地域の強みを活かした産業の育成
5. 豊かな自然と共生する持続可能な社会の形成
6. 北方領土隣接地域等の振興
7. アイヌ文化の振興等

目標2に係る主要施策

1. デジタルの活用による生産空間の維持・発展
2. 多様で豊かな地域社会の形成
3. 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成
4. 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

第4章 計画の主要施策②

第1節 「我が国の豊かな暮らしを支える北海道」に係る主要施策①

1. 食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展

(1) 我が国を先導する農林水産業の生産力強化

輸入依存度の高い小麦・大豆・飼料作物等の生産・利用拡大



大型機械による効率的な作業体系の構築



新品種の導入
(青刈りとうもろこしの超極早生品種)

スマート農業の実装加速化

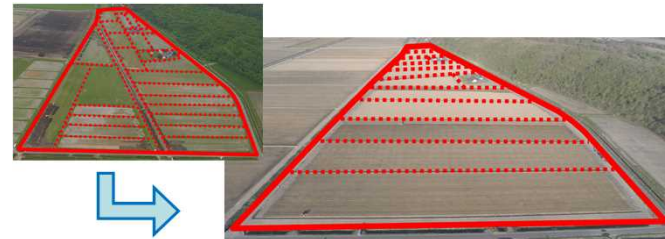


自動走行トラクターの導入



飼養管理技術の高度化
(発情発見システム)

農業生産力を強化する生産基盤の整備



農地の大区画化と集積・集約化

スマート林業の実装加速化



ICTハーベスタの導入

木材生産力を支える経営基盤強化



コンテナ苗の活用

スマート水産業の実装加速化



漁場予測システムの導入

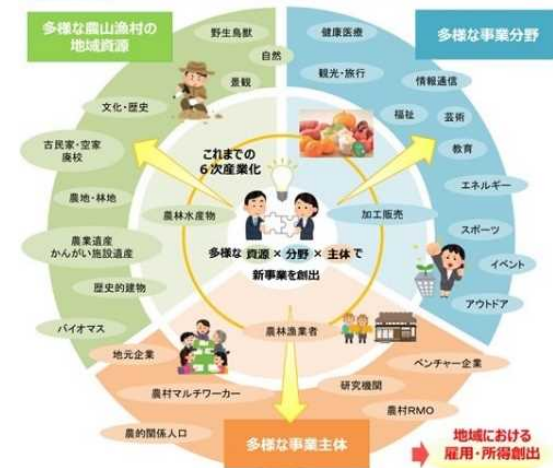
養殖業の成長産業化



国産品の生産拡大(サーモン)

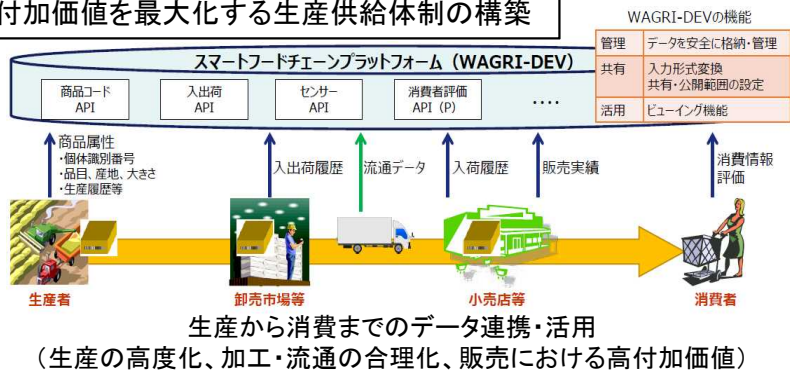
(4) 農林水産業の持続性を支える農山漁村の振興

農山漁村の所得と雇用機会の確保



(2) 国内外のマーケットに対応したバリューチェーンの構築

付加価値を最大化する生産供給体制の構築



(3) 持続可能な農林水産業の展開

スマート技術や新たな生産技術等の活用による環境負荷の軽減



豊富な地域資源を活用した農林水産業と他産業との連携

第4章 計画の主要施策③

第1節 「我が国の豊かな暮らしを支える北海道」に係る主要施策②

2. 地球温暖化対策を先導する活力ある脱炭素社会の実現

(1) 北海道の地域特性を活かした持続可能な脱炭素社会の形成

地域特性を活かした再生可能エネルギー導入・活用



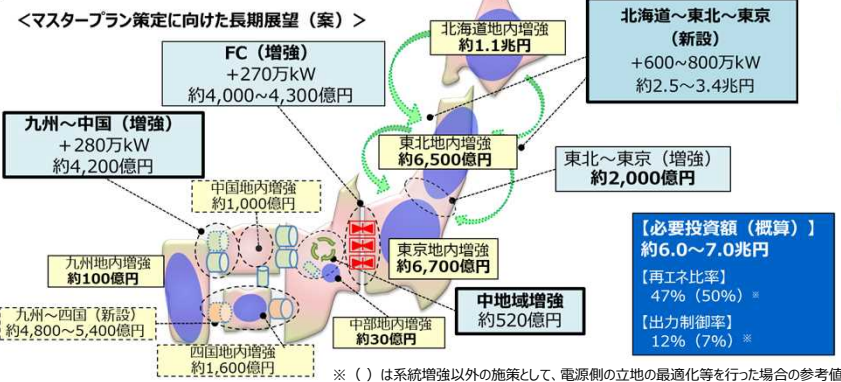
地域資源の有効活用やエネルギーの地産地消等により地域の活性化につなげる

省エネルギー性能の高い住宅・建築物の普及



(2) エネルギー基地の形成

地域間連系線の増強・新設



出典：第21回 広域連系システムのマスタープラン及び系統利用ルールの在り方に関する検討委員会資料1 地域間連系線および地内増強の全体イメージ(ベースシナリオ)より資源エネルギー庁作成

カーボンニュートラルポートの形成



(3) 北海道のCO2吸収力の発揮

森林資源の循環利用及び計画的な森林管理



公共事業におけるブルーカーボン生態系の創出

マウンドを浅くすることで日光が届き、昆布等の海藻類が定着することによって、CO₂吸収源対策となる水生生物の生息環境を創出



第4章 計画の主要施策④

第1節 「我が国の豊かな暮らしを支える北海道」に係る主要施策③

3. 世界トップクラスの観光地の形成

(1) 世界市場に向けた新たな観光コンテンツの創出・拡充と稼ぐ力の向上

新たな観光コンテンツの創出・拡充



ホタテの貝殻を活用した白い道でのフットパス(稚内市)

新たな観光スタイルの受入環境整備



農林水産業との連携による観光地域づくり(農泊)

高付加価値な観光の推進



観光消費額単価の高い観光コンテンツへの誘客(サイクルツーリズム)

(2) 多様な旅行者の地方部への誘客に向けた受入環境整備

ゲートウェイ機能の強化と地方部への交通アクセスの改善



新千歳空港国際線ターミナル

空港の受入機能強化



旭川空港

旭川東神楽道路

空港からのアクセスを担う高規格道路の整備

多様な旅行者が安全・安心に旅行できる環境の創出

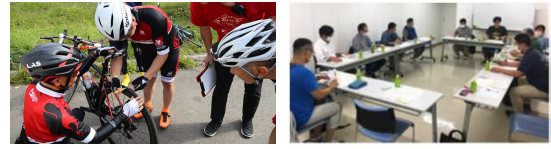


JNTO認定外国人観光案内所

「道の駅」での情報提供の充実



北海道医療機能情報システム
北海道医療機能情報システム
- 病院・診療所・歯科診療所・助産所・薬局
About medical institutions available for foreign languages
Search for hospitals, clinics, dental clinics, midwives
Find a hospital near me
Search for medical institutions by area
Search by medical institution name
Search by medical function



地域との連携による観光ガイドの育成

MICEの活用



G20観光大臣会合

観光におけるデジタルの実装



観光地型MaaSの導入



車中泊のアプリ予約

(3) 自然環境・文化の保全と観光が両立した持続可能な観光地域づくり

サステナブルツーリズムの推進



急速EV充電施設の設置状況(道の駅「おとふけ」)

地域資源を活用した持続的な観光地域づくりの推進



自然環境・文化や景観と観光が両立した地域との協働による観光地域づくり(みなとオアシス、シーニックバイウェイ「秀逸な道」)

北海道が世界に誇る北の縄文遺跡等の保全・継承



函館市南茅部地区で発見された国宝「中空土偶」

観光を支える担い手の育成・確保



国内外の観光客に「綺麗なお花」を見てもらうおもてなしの取組



私たちがご紹介いたします
地域をつなぐルートコーディネーターの取組

第4章 計画の主要施策⑥

第1節 「我が国の豊かな暮らしを支える北海道」に係る主要施策⑤

6. 北方領土隣接地域等の振興

(1) 北方領土隣接地域の安定振興

北方領土問題解決のための環境づくり



国民世論の啓発活動



北方領土返還要求運動の後継者育成

活力ある地域経済
の展開

交流・関係人口の拡大

社会・経済の安定的な
発展の基盤の形成



肥培かんがい施設の整備
(環境と調和した農業の推進)



体験型・滞在型観光



交通ネットワークの整備

(2) 国境周辺地域の振興

離島地域における本土への
安定的なアクセス確保

豊富な再生可能エネ
ルギー源の活用

風力発電導入
拡大を目指した
送電網の整備
(道北地方)



港湾等の整備
(礼文町・香深港)



7. アイヌ文化の振興等

アイヌ文化の振興等

アイヌ施策の総合的かつ効果的な実施



アイヌ文化体験交流の支援



ラジオ番組を通じたアイヌ語の普及

ウポポイを拠点としたアイヌ文化の復興・創造等



民族共生象徴空間(ウポポイ)



ウポポイ 行くなら HOKKAIDO LOVE!
動画広告の配信

アイヌ文化の復興等に向けた
ネットワークの構築



調理体験(ポロトキッチン)



各地域の保存会による舞踊披露

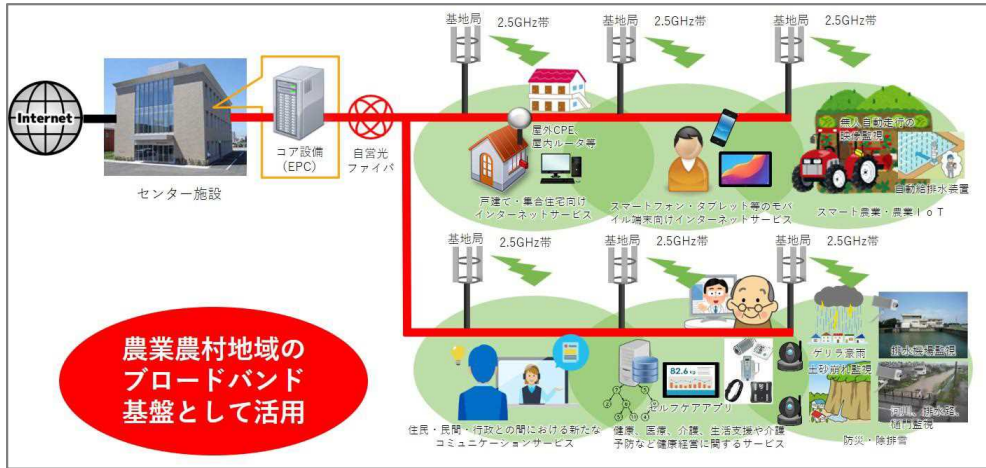
第4章 計画の主要施策⑦

第2節 「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造」に係る主要施策①

1. デジタルの活用による生産空間の維持・発展

(1) 広大な北海道に適したデジタル基盤の整備

ブロードバンド環境整備



公設公営の地域BWA網(岩見沢市)

(2) 必要なサービスをデジタル技術で享受できる社会の形成

ドローンによる宅配配送



食品を載せて自宅前に到着するドローン(上士幌町)

医療介護連携ICT



システム概念図(名寄市)

2. 多様で豊かな地域社会の形成

(1) 人への投資と多様な人材・主体による協働・共創の展開

教育機関との包括的な連携による人材育成



北海道教育委員会と北海道開発局との連携協定締結式

協働・共創の取組



北海道価値創造パートナーシップ活動 Web交流会

(3) 生産空間の暮らしを支える中心市街地の形成と賑わいの場の創出

中心市街地活性化の取組

(2) 多様な暮らし方・働き方の実現

テレワーク・サテライトオフィス



家屋を借り上げた職住一体型サテライトオフィス(北見市)



再開発ビルの外観(帯広市)



新商業施設(旭川市)

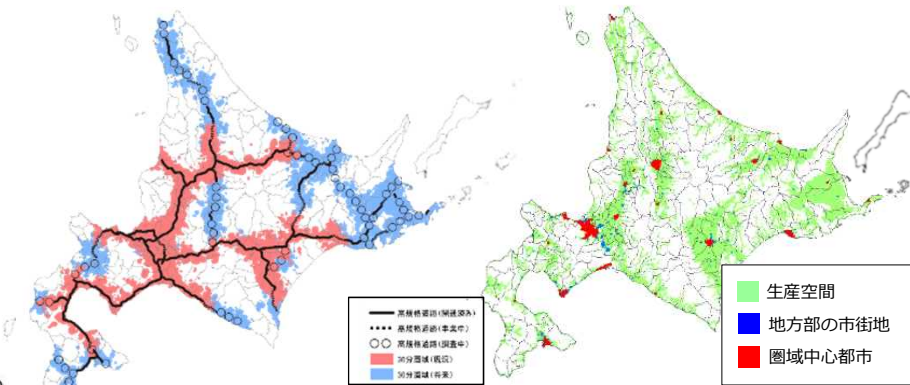
第4章 計画の主要施策⑧

第2節 「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造」に係る主要施策②

3. 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成

- (1) 広域分散型社会を支える交通ネットワークの形成
- (2) 産業を支える物流基盤の整備と物流システムの維持・効率化
- (3) 安全・安心な移動環境の確保
- (4) 札幌における交通結節機能と都市機能の強化

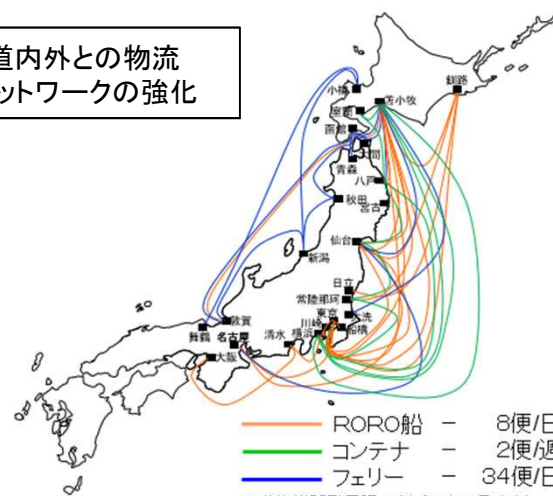
生産空間に住み続けるための
交通ネットワーク



(人口カバー率: 79%→97%、面積カバー率: 41%→77%)

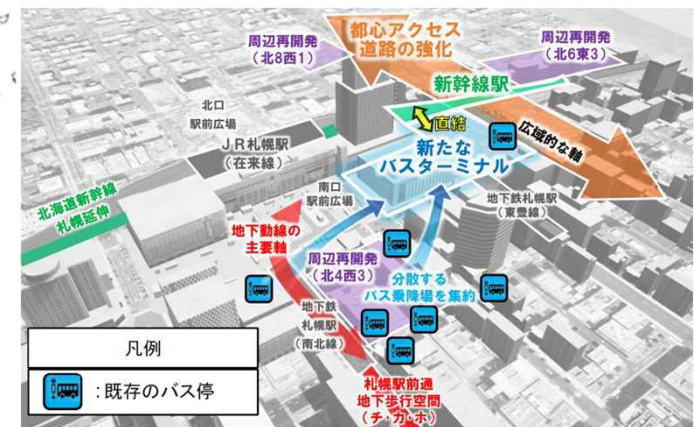
高規格道路整備による北海道型地域構造のIC30分圏域のカバー状況

道内外との物流
ネットワークの強化

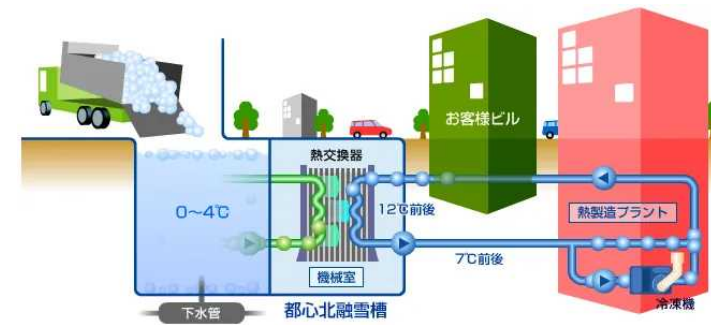


北海道の国内RO-RO船・フェリー・コンテナ航路

札幌駅周辺の交通結節機能強化



都心の脱炭素化、強靱化、冬も克服した
快適性向上の推進



雪冷熱を利用したまちづくりの推進

十勝南モデル
地域の取組例



第4章 計画の主要施策⑨

第2節 「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造」に係る主要施策③

4. 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

- (1) 気候変動に伴い激甚化する水災害に対する北海道の地域特性を踏まえた流域治水の本格的実践
- (2) 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震等の大規模災害に対する生産・社会基盤の強靱化
- (3) 冬期災害や複合災害に対する防災力の強化
- (4) デジタルを活用したインフラの維持管理及び技術開発の推進
- (5) 災害時におけるライフラインの機能確保に向けた施設の耐災害性強化及び多重化・分散化
- (6) 国家的規模の災害時におけるリスク分散

流域治水の推進



根幹的な治水対策として遊水地を整備



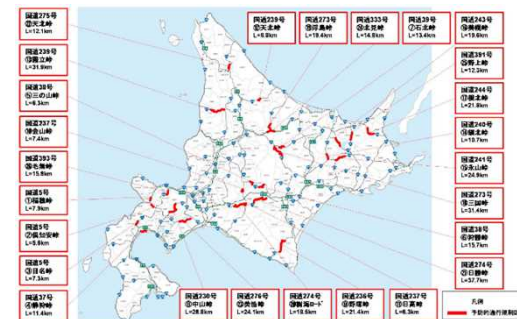
貯留機能を有する旧川の保全

津波避難対策特別強化地域に指定された地方公共団体の津波避難対策への支援



津波避難タワーの整備事例
(積雪寒冷を考慮した防寒機能付き)

計画的・予防的な通行規制・集中除雪



大雪時に急な登り坂で大型車等が立ち往生しやすい26区間を予防的通行規制区間として設定

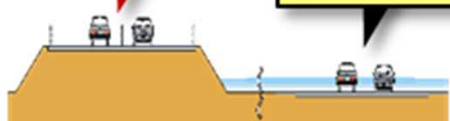
道路・海上ネットワークの強靱化

釧路外環状道路、
北海道横断自動車道
(本別～釧路)

津波浸水を回避

国道38号
国道44号

津波浸水



国道38号、44号付近の津波浸水を回避し、災害時における迅速な避難及び救援活動が可能



耐震強化岸壁の整備事例

点検の省人化・効率化



漁港施設の水中心検の効率化事例

ライフライン施設の耐災害性強化



整備前

整備後

無電柱化の整備事例